

「急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析」に関するアンケート 集計結果

調査期間:2018年2月15日～3月15日

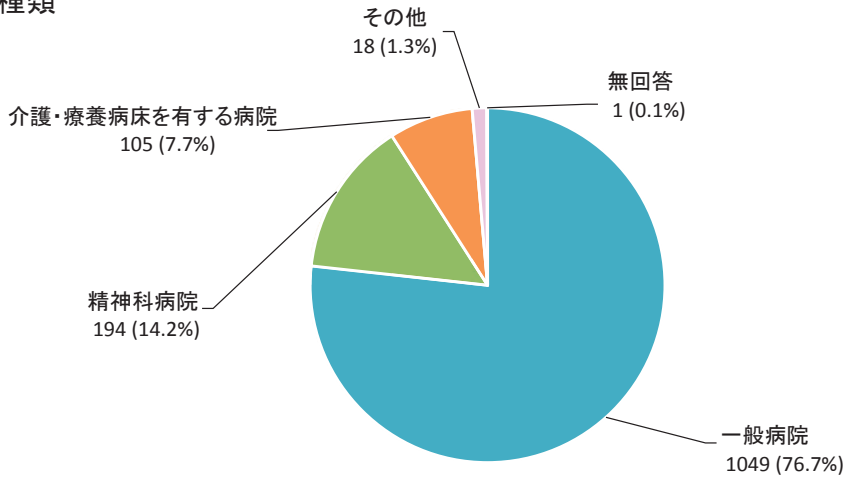
調査対象:全国の病院 8,427施設

有効回答数:1,367 割合 16.2%

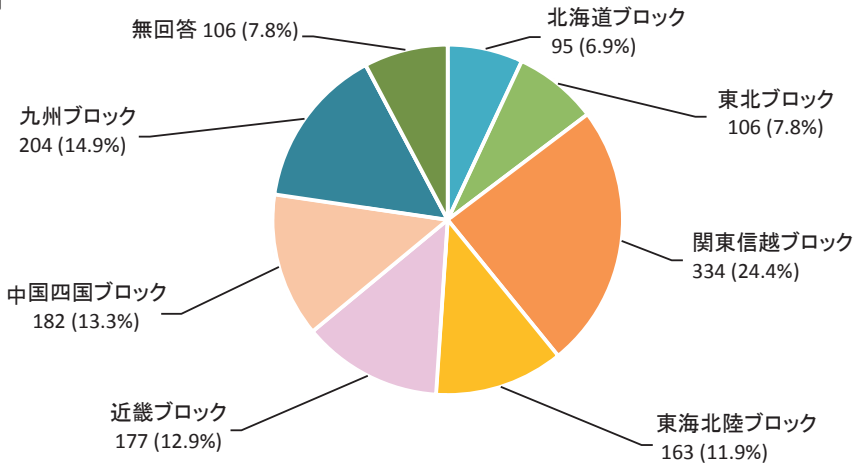
施設について

1. 医療機関の種類

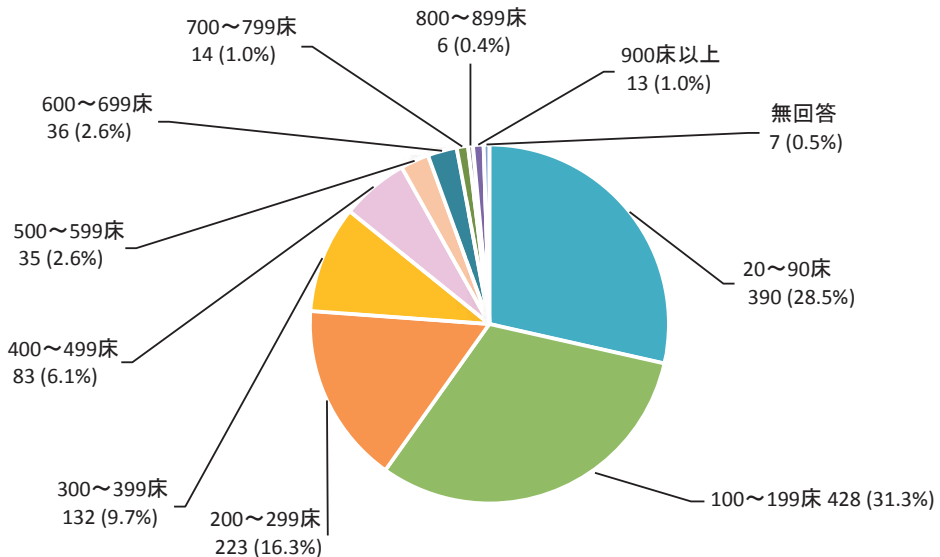
n=1367



2. 地域ブロック別

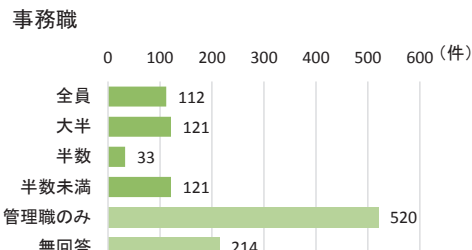
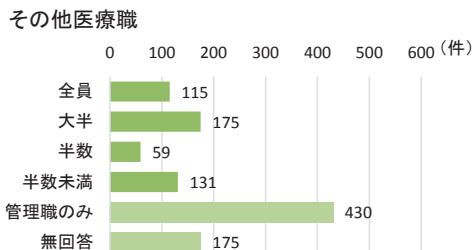
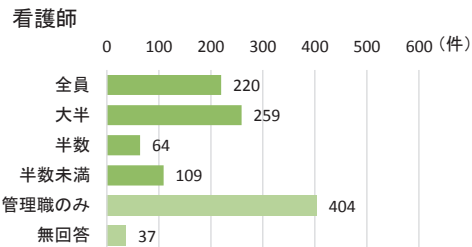
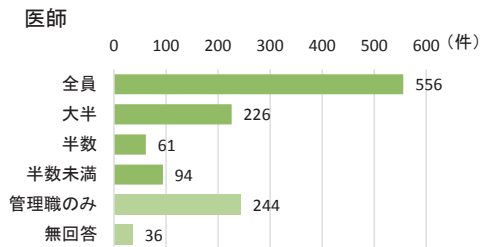


3. 病床数



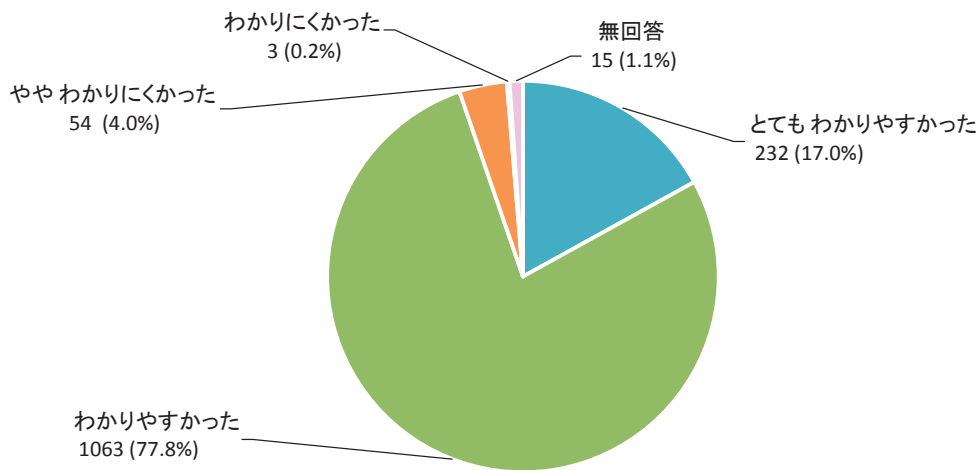
# 提言書の閲覧状況(対象者別)

n=1367



# 提言書についての意見

n=1367



○自由記載 (一部抜粋)

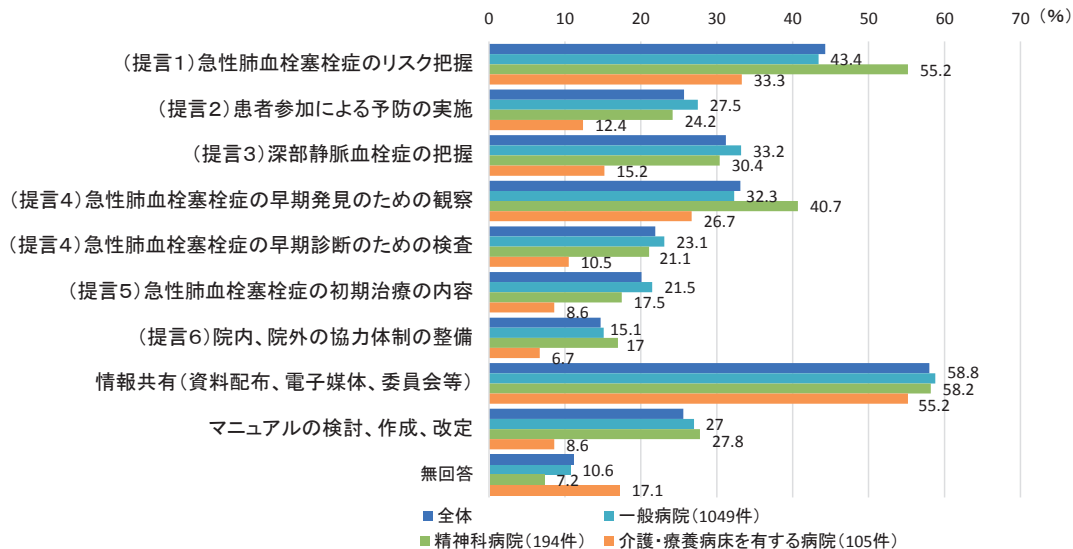
- 実践につながる提言であり、詳しく分かりやすく記載されていたので良かった。
- 対象事例の概要が書かれており良かった。
- 事例に基づいての解説があり、提言は特に具体的に記載されているのでイメージがしやすかった。

# 活用状況

医療機関の種類別

n=1367

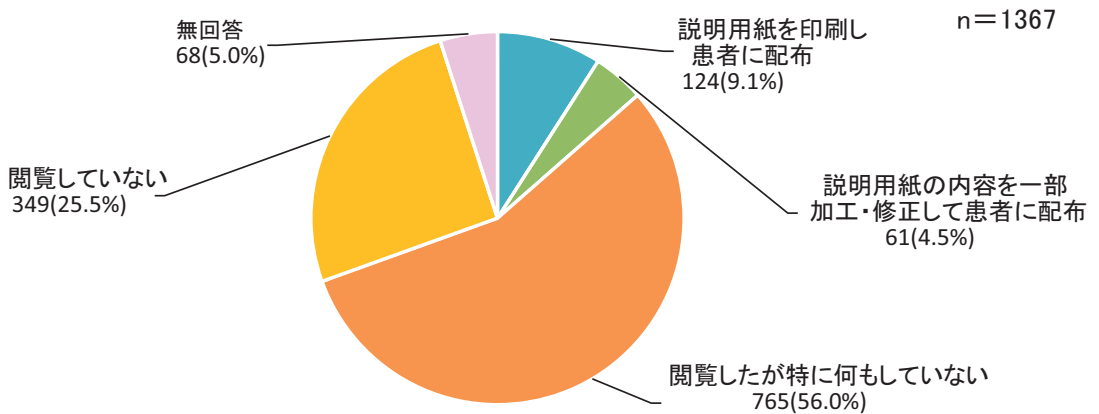
複数計上



○自由記載（一部抜粋）

提言1	○電子カルテ内にリスク評価や予防対策等のテンプレートを作成中であり参考にした。 ○入院患者全員スクリーニングとした。 ○リスク評価表を作成した。
提言2	○入院時オリエンテーション配布資料の見直しと患者配布用パンフレットを改訂した。 ○予防対策を実施し、フットポンプを導入した。
提言3	○深部静脈血栓のスクリーニング表を改訂した。 ○Dダイマー、下肢静脈エコーを追加した。
提言4	○看護師の観察力向上が早期発見に重要と分かり、各部署師長に周知を依頼した。 ○早期発見のため、拘束中はSpO <sub>2</sub> 測定し評価するようにした。 ○医師、看護師で連携を図り、症状の観察とその報告を行う事で、早期対応につなげている。
提言5	○各病棟のヘパリンの配置状況について確認した。
提言6	○単科病院では、リスクの把握、予防、早期発見、速やかに治療、精査できる病院との連携の重要性を再認識する内容であった。
体制整備	○他施設との医療安全相互チェックのテーマとしたワーキンググループを立ち上げた。 ○近隣の大学病院と連携を取るようしており、連絡方法の再認識を行った。
情報共有	○医療安全委員が内容の把握を行い、資料の配布と病棟ミーティングを実施し対応の確認を行った。 ○当院の静脈血栓プロジェクト会議で、提言について検討した。
マニュアル	○「静脈血栓塞栓症リスク評価表」を見直し手術、非手術に分け作成した。 ○院内でマニュアルの見直しに取り組み始めていたところであり参考になった。

「安静臥床中の患者に向けた説明用紙」の使用状況（ホームページ掲載）



○自由記載（一部抜粋）

- 一枚で簡便でわかりやすいため活用しやすい。
- 大きく拡大し外来に掲示した。病棟はそのままの大きさで掲示し電子カルテ内に掲載した。
- すべての床頭台に設置した。PDFファイルではない、エクセル、パワーポイントの方が使用しやすい。
- 今後患者へ配布する予定である。
- 病院で作成した説明書、及びパンフレットを使用しているため使用していない。

要望・感想（一部抜粋）

要望

- 提言書に対して
- 当院では発生していない事例であるが、事故を起こさないための意識付けになっている。今後も提言書による情報提供をお願いしたい。
  - 専門的すぎる。小規模の病院は、“専門的施設と連携をとる”ことは容易ではない。専門的施設がオープンになってもらいたい。
- センターに対して
- 院内研修会実施の際に使用できる資料がネットにあればよい(パワーポイントなど)。
  - 提言書の周知が難しい。他の施設ではどうしているか知りたい。
- 学会・企業等へ
- 入院当初より肺血栓塞栓症予防を行っていても、一瞬にして発症し死を迎えることが多いのが現状のようである。根本的に断ち切るのが難しい。発症しない為、今後どうしたらいいか原因究明に取り組んで頂きたい。

提言書に関する感想

- マニュアル整備の必要性を痛感している。
- 適度なボリュームなので、会議の時にも目を通してもらいやすかった。
- 事例の背景、経過、対応などから身近に感じられ、「いつでも起こりうる」という危機感を持つことができ、提言書は有効だと思う。
- 今後同様の事例が発生した時のことを考え、とても勉強になった。
- 医療事故報告制度によりこのような成果物となることを周知することができている。報告の効果を感じてもらおう一助となっている。
- 提言の発行は、院内の医療安全対策を整えていく上で助けになる。
- 内容が今までのガイドラインとあまり変わらず、特に新しく何かに取り組む必要が見当たらなかった。